

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	<p>取組1: アンケートやヒアリングを通して、留学生の生活や学習の実態を調査する。調査結果をまとめる。</p> <p>取組2: 学習支援者を育成する研修の内容や方法を検討し、試行的に実施する。</p>	<p>取組1: 協定留学生が生活面や学習面で直面している困難や不満について、まずヒアリングを行い、1. 来日時のサポート、2. 学期中のサポート、3. 授業や勉強の満足度、4. 日本人学生との交流、5. 留学生同士の交流の5点にまとめ、調査を行った。その結果、来日時の手続の困難さや、日本人学生との交流に不満を感じていることが浮き彫りとなった。</p> <p>取組2: 研修の試行的実施には至らなかったが、調査の結果、留学生は、本学での学習面については、概ね満足しており、生活面や国際交流を支援する人材の育成が必要であることがわかり、研修の方向性が見えた。今後具体的な内容や方法を検討する。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和5年度 (2023年度)	<p>取組1: アンケートの結果を踏まえ、来日時の留学生向け手引きを充実させ、取組3とも関連するが、交流イベントの見直しを行う。昨年度に続き、アンケートを行うことで、改善策の効果の有無を検証する。</p> <p>取組2: 現在のバディ制度を活用し、留学生が抱えている問題を提起し、支援方法を共に考える場を設ける。必要があれば、学内の関係部署で共有する。</p> <p>取組3: 留学生と日本人学生が外国語で話すチャットルームを進化させるとともに、それ以外に実施可能な交流の場や支援する学生団体の創設に向け、検討を開始する。</p>	<p>取組1: 前年度に実施したアンケートの結果に基づき、SNSによる国際センターの情報発信を行った。また、「異文化体験週間」や「留学フェア」等の国際交流イベントを例年より数を増やして実施し、協定・私費留学生、海外留学を経験した学生による、各国を紹介する機会を設けた。また、質問項目をより具体化し、協定留学生・私費留学生・バディを対象としたアンケートを行った。その結果、留学生においては、留学初期の手続きに困難を感じるものの、国際センターの支援について、全体的に満足度が高いことがわかった。課題として、提要している支援に関する情報発信をより強化していく必要性が見出された。</p> <p>取組2: バディ同士の意見交換の機会、留学生への日本語学習支援方法、異文化間コミュニケーションを学ぶ場を今年度新たに設けた。また、バディ経験者にアンケートを実施した結果、留学生との接触機会にばらつきがあることがわかり、質の保証が課題として見出された。</p> <p>取組3: 留学生と日本人学生が外国語で交流するチャットルームを複数回実施した。また留学生の発案によるマンツーマン・あるいはグループ形式の外国語(韓国語)学習支援企画について、その周知及び教材面で国際センターがサポートした。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和6年度 (2024年度)	<p>取組1: アンケートの結果に基づき、来日時の手続がより円滑に進むように支援を行う。また、国際センターが提供しているサポートについて情報発信面で強化を行う。</p> <p>取組2: 留学生とバディ経験者を対象としたアンケート結果に基づき、個人による参加頻度のばらつきを解消するために、バディミーティングの定例化、バディ活動の目標設定を導入し、改善を図る。</p> <p>取組3: 留学生と日本人学生との交流の機会を定期的に設ける。具体的に、これまで行ってきた「異文化体験週間」等のイベントに加え、JLPCコースを受講している学生や、留学生の希望者が日本人学生と共に自主的にイベントを企画し、実施できるよう、支援していく。</p>	<p>取組1: バディ向けの最初のオリエンテーションで、バディに求める役割や支援例を示し、例年よりも具体的な説明を行った。具体的には異文化理解や外国語教育支援に関する内容を提供した。</p> <p>取組2: バディミーティングを各学期毎に2回ずつ開催して、バディ同士の情報交換の場を設けた。さらに、バディと留学生がゲームや会話を通して交流するイベントを後期に開催し、活動へのモチベーションを高める機会を提供した。</p> <p>取組3: 例年に比べ、「異文化体験週間」や「チャットルーム」に協力する協定留学生の人数が増加し、積極的に日本人学生との交流が行われた。一方で、私費留学生の協力者数は伸び悩み、私費留学生の活躍の場を設けることが課題であるように感じる。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和7年度 (2025年度)	<p>取組1: 本学に在籍する協定留学生・私費留学生を対象に、留学の効果測定を今後導入する予定であり、令和7年度は、国際センター教員のもと、アンケートの質問項目の開発に取り掛かりたい。</p> <p>取組2: 昨年度に引き続きバディミーティングを定例化することで、バディのモチベーションを保ち、活動頻度を高めたい。さらに、バディ活動の取組をホームページ等に掲載して、学内外に発信する。</p> <p>取組3: 学内開催イベントを中心に、留学生が主催者側となるイベントの企画や運営に携わる機会を新設したい。特に、既存の留学生会(中国・韓国)を活用して、私費留学生の活躍を促進したい。</p>	